SOFT CARE

人らしく・暮らし・応援紙

ほほえみパーク

no.100
2011.MAY

地域と共に生きる福祉へ
9の拠点から

風船バレーの真っ最中（みとう温泉）

ゆうしゃかん

ENGAGE 突破口を開く「繋がり」を求めて

私共の法人が20年目という節目にちなみ、法人名を“優輝福祉会”に改称し、新規事業として地域共生型福祉施設『ゆうしゃいん庄原』の開設にこぎつける事ができました。高齢者や障がい者の方々を対象とした地域密着型複合施設として、慣れ親しんだ地域から離れることなく住み替えを行い、新たな生活拠点にしていただくというものです。

春の訪れを心待ちにしながら、事業スタートの準備に勤しんでいた矢先、突然に襲った東日本大震災と原発事故の大惨事は、日本中に大きな衝撃を与えました。壊れかけた日本の「復興」「再生」の途は、真に「共生」への途でもあります。元来、「崩壊」→「復興」→「再生」を繰り返す摂理に逆らうことなく、冷静かつ客観的な「時代認識」が必要かと感じております。私共の福祉は、**笑顔** と **信念** が大切と考えております。法人の理念に「安全」「安心」「安定」「安楽」を掲げさらに役職員・ご利用者共々「誇り」の持てる福祉の実現にむけて、日夜取り組んでいるところですが、今回の惨事はこうした福祉をもゆるがし、私共に挑戦状を突きつけた格好です。

社会福祉の理念に、「変化」・「発達」 場合によっては「発展」・「進歩」という理念があります。また、私自身が学生時代に社会福祉実習をしていた時に、ある高齢者の方から頂いた言葉で「ウン」・「コン」・「ドン」についてふと思い出しました。どんな厳しい時でも、運が良かったと思えば、また新しい明日が訪れてくるものです。運は引き寄せるものかと思います。従って、運が開かれるまで根気強く、そして少し鈍感にやってゆくことを教わったような気がします。

ちなみに、福祉サービスだけに留まらず、福祉を担う者の心の持ち方、いわゆるソフト面においても、ゆるぎなく且つ柔軟で隙間を埋めていく対応や、共に生き抜いていくべく“人間力”をも備えていかなければならないと考えております。例えば、私共のサービス拠点の“ゆうしゃいん”は “YOU・SHINE”のロゴで「あなたが輝けばわたしも輝く」という意味で、YOUイズム（あなたが主役＝他者中心主義）を貫いたサービス提供を実践しています。そして何よりも、人と人とのつながり（結びつき）と支え合い、すなわち“絆”を大切にしております。「絆」という字は「糸」偏に「半」と書きますが、私共の考える“絆”は、あなたと私とで半分半分にしましょう、すなわちほんの半分だけ誰かに差し上げるという気持ちを込めたものです。

今回の東日本大震災に見舞われた被災者の方々にこそ、「復興」「再生」に向けて、こうした国民全体が苦しみを分かち合い、共に生き抜こうとする、真に共生型福祉の再構築が命題のように思えて仕方ありません。

私共法人と致しましても、慣れ親しんだ故郷のたたずまいと温かい人間関係（「絆」）が、東日本に再び取り戻せる日を願いつつ、当面、被災者の方々に対して、義援金100万円を目標に届けさせて頂く所存です。

以上、今回この機関紙100回記念号のメッセージとして、皆様にお届けさせて頂きます。

今後とも末永く、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

社会福祉法人 優輝福祉会　理事長　熊原　保

「きれいになって嬉しいよぉ。え一色よ。一番に気に入った。」

高齢者福祉総合センター
ユーシャイン

RENEWAL 昨年の優輝福祉会設立20周年を期に、ユーシャインは秋から冬にかけて、14部屋をリニューアルしました。ご利用者と担当の介護職員が話し合って、一部屋一部屋をご利用者の好みの壁紙とカーテンに変身させていきました。長期に渡って入所される方もあり、ご利用者にとってお部屋は住まいそのもの。「利用者さんの好みの色にリニューアルすることで少しでも心地よく過して頂けたらとの想いからしました。カタログを見て話し合っている内に、利用者さんも職員も嬉しくなって、一緒に楽しませて頂きました。」と介護主任の早川さん。

FLOWER 施設の広い玄関ホールには、いつも、四季折々の美しくアレンジされた花が飾られ、訪れるご利用者やお客さまの目を楽しませ、癒やしています。「両親が施設を利用していたので、お世話になったお礼と感謝の気持ちもあって。家に生けるよりも施設に生けて、みなさんに元気になって頂く方がいい」「生花はストレス解消になり、皆様に観ていただく事で勉強にもなっています。」と語るのはユニット・ケアマネージャーの森田主任。

「トータルケアホームゆう愛」・・・・障がい種別を問わないグループホームです。

「レミニセンス夢亭」・・・回想療法の拠点すす竹の天井や囲炉裏があり、昔懐かしい民家を再現しています。

庄原九日市の出店風景（横山旅館前）

障がい者支援施設

ともいきの里

総領町節分草祭りの出店風景

ＩＫＩショップの商品

WORK 朝、施設に入ると、玄関から続く広いリビングでは６～７名のご利用者が中央に集まり、黙々と仕事をされています。グループの名前は〝ＩＫＩ（いき）作業班〟。ご利用者おひとりお一人が自分に合った仕事を選び、便利でかわいいオリジナル小物作りに精を出されています。一部の方がちぎり絵を始めたのが活動のきっかけ。次第にご利用者の中から除々にアイデアが生まれ、メンバーもいつの間にか増えて、現在の様なご利用者による独自の製作チームが形成されました。ちぎり絵をされている方にそっと寄り添うだけのつもりだった職員でデザイナーの伊折さん「障がい者の方に、頑張れとは言ってはいけないのですが、仕事では頑張ってやってみましょう！と励まします。難しいことを前提でやるのですから」今ではこのグループの先生的な存在となり、みなさんと共に商品開発に知恵を絞っています。

SHOP 販売にも力を入れているみなさんは、職員のサポートを得ながら、各種イベントにも積極的に参加されています。出店は世間の空気に触れる絶好の機会。お洒落をしたり外食をしたり季節を肌で感じたり、多くの方との交流も楽しみの一つになっています。ご利用者の中で自然発生したＩＫＩ作業班の活動は、単調になりがちだった施設の生活に潤いと緊張感を生み、生活のハリになっている様です。

「収入はわずかですが、月に一度の散髪費に当てたり、好きなパンを買ったりと、お小遣いとして使う楽しみにもなっています・・・」

「事務所の竹田です。産・育休に入り皆さんにご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします。」

*ともいきの里生活協議会（入所者の会）からも、東日本大震災の被災者の方へ義援金を届けさせて頂きました。

小規模多機能型居宅介護事業所
共同生活介護事業所・ゆうき相談所

横山旅館SS

「こんにちは〜」

木枠の古いガラスの引き戸を開けると、いきなり靴がいっぱい並んだ玄関。ここは、旅館がそのまま生かされている施設。横山旅館は商店街に面していて、人や車がすぐ目の前を行き交い、通りがかった人が、思わず立ち寄ってしまいたくなるような、昔なつかしいホットスペースです。

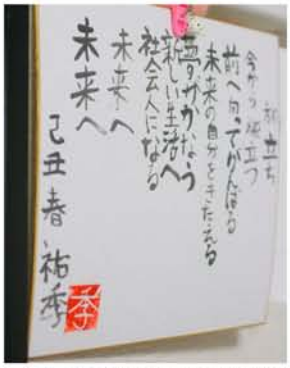
VISIT 今、配食も含めて、日に約10軒の家を職員が交代で訪問させて頂いています。訪問といっても、特別なことをするのではなく、どうされているかなぁと顔をのぞかせる昔のご近所付き合いのようなもの。軽く会話を交わし、健康のご様子などを見て帰ります。普段、通いでは見られない笑顔に出逢えることもあり、嬉しくなります。訪問を通して、ご利用者の生活や素顔に触れさせて頂き、またご家族の方とも交流ができ、忙しいですが充実した毎日です。

小規模多機能型居宅介護事業所
障がい者多機能型事業所

ゆうしゃいん三次

RETURN 夕方４時ごろは、自宅へ帰られる高齢者の方と、仕事から帰って来られる障がい者の方や放課後の子どもさんとの入れ替わりで、一番賑わいます。ゆうしゃいん三次は、障がい者の方が共同で暮らしたり、通って来られたり高齢者の方に泊まりや通い、訪問などのサービスを提供している複合福祉施設です。以前は病院に勤めていた長谷さん、施設で看護師として働く魅力について「病院と違って、薬や医療に頼らず、ご利用者に自然に過して頂けるから。管などを使わず食事は口から食べて頂きたい・・」

「いずれは、ターミナルケア（看取り）も引き受けたいと想っています。小規模は理想的な施設だと思います。」



レストランで働いている熊澤さんは、21歳 。「ことばを書くのが好き自然が大好き。季節を感じる詩を書いています。」「夢は・・・・詩集をつくることかな・・・」最近、パソコンもマスターしました。

クリーニングや洗車などの仕事で、各施設を廻っています。さわやかな挨拶が、印象的なみなさんです。

瀬尾さんは、男性ですが刺しゅうがお仕事。図案なしで自然に手が動きます。「たぶん刺しゅうの得意なおばに似たのでしょう。」「ここに来る前は引きこもりでした。ここが気に入っています、定年まで働きたい。」夢は車の整備をする事。車屋を廻って独学で勉強中です。

守長さんは、携帯のケースを 作っています。ひとつ一つが手作りで同じ物がなく、好評です。

SALON 三次市塩町商店街の中心地に、ゆうしゃいん塩町がＯＰＥＮして４月で１年が過ぎました。福祉拠点として、通いや泊まりや訪問などのサービスをご利用頂く中、より地域に密着した営みとして、月に１回「サロンえがおする会」を開いています。メンバーは月によって異なりますが、現在はご近所にお住まいの女性５名＋通いのご利用者４名が来られており、朝１０時より昼食を挟んで夕方４時まで１日をゆったりと過して頂いています。主に、福祉などに関する勉強会と介護予防として音楽療法や回想療法、健口（嚥下）体操を組み込みゲームや歌やクイズ、クラフトなどを通して、楽しみながら自然に体と頭の体操ができる内容になっています。「こどもさんからお年寄りまで地域のみなさんに遠慮なく来て頂きたい」と管理者 末重さんの想いは膨らみます。

＊嚥下体操…おしゃべりや飲み込みを良くする体操

小規模多機能型居宅介護事業所
ゆうしゃいん塩町

メンバーのお一人が
みなさんへのお土産に
バックを手作りされました。

●ちょっとお手伝い

●当所自慢の手作り料理

●指の体操♪

●歌ネタ・レクネタ・話ネタ

●血圧・体温測定で健康チェック

●牛乳パックで箸置き作り

●足浴、家でも始めたのよ～

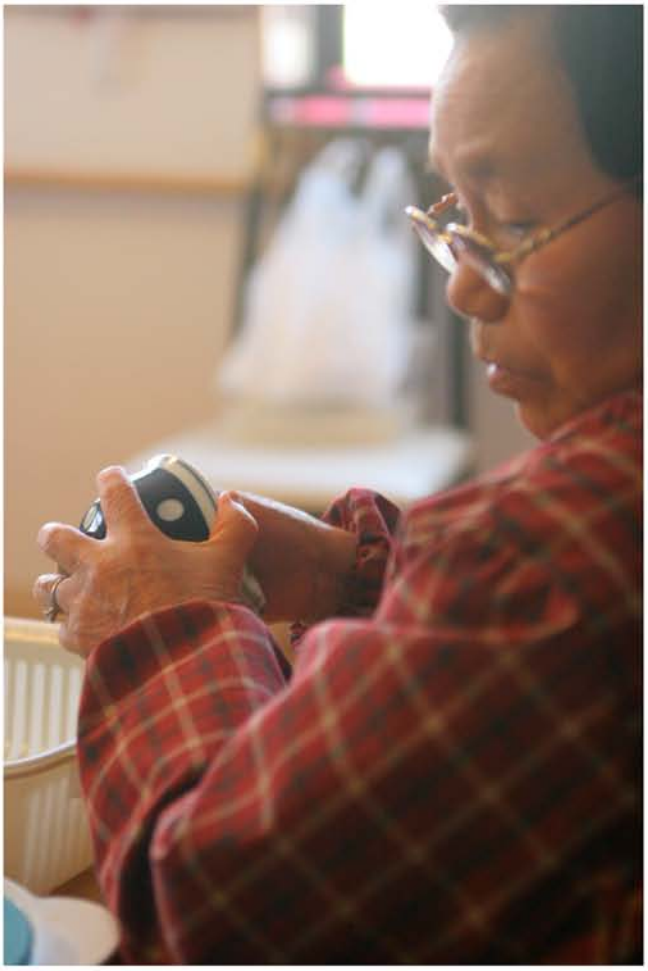
●ゲーム「広島弁カルタ」

グループホーム
小規模多機能型居宅介護事業所

みら屋・三良坂

DREAM 「ほったて小屋でもいい。皆が、肩寄せ合って、助け合って暮らせる家のようなところがあったらええと思うんじゃ。そのために、裏の畑の土地を使ったらええ・・・」１０年前に、そんな夢と願いをもったおじいちゃんが、三良坂にいました。その後、熊原理事長との出会いがあり、現在のグループホームみら屋が誕生しました。建物は、昭和の民家を移築したもので、中に入ると、わが家に帰ったような、どことなく、ぬくもりと安心感の漂うお家（うち）です。いま、ここの管理者を務めているのは、おじいちゃんの孫娘である渡辺典子さん。

HOME ご利用者は、洗濯物をたたんだり、食器を片付けたり、掃除をしたりと、お一人おひとりができることをできる範囲で、自分のペースでこなされ、ご利用者同士や職員が、ありがとうとお礼を返すことで、やりがいや生きがいを感じられているのではないでしょうか。「これからは、年寄りも増えるし、一人になったり子供もおらんもんもおる。それらが一緒に暮らしたらええ。お金はなくても米や野菜も作ったりすれば何とかなるから、皆で助け合って暮らせばいい」そんな、おじいちゃんの想いを継ぐように、みら屋三良坂は、“住み慣れた我が家・ともに暮らす家族”を実践中です!!



LOCAL 開設８年目の今年の目標は、地域の一員になる事。ご利用者と地域に出て、空き缶拾いをしたり、地域の方と一緒に何かすることで、認知症や障がいがあっても役立つ存在になり、地域に貢献することで、ご利用者の生きがいになればと考えています。 一方ご利用者やホームのことをもっと地域の方々に知って頂くことも大切です。

「なにが入っているのかな・・・？!」

地域生活支援舎・デイサービスセンター

ケアハウス吉舎

SHOW 昨年の忘年会で、「 水戸黄門 」を演じて、初デビューした“やどりや一座”。黄門（白銀）さんと格（向井）さんが、吉舎を舞台に悪者を成敗する物語。演ずる役者はもちろん、脚本から衣装に至まで、すべてケアハウス吉舎のデイサービス職員が手がけました。

LAUGH 千秋楽のこの日は５日目とあって、余裕で会場の空気を読み取りながらのアドリブ続出。笑いのツボをつかんだ演技は吉本を越えるかも（笑）。旅館を守るけな気な娘役で登場した佐々木さんは、男性とは思えないグラマーなお色気で、ご利用者からモテモテ。見事な悪役ぶりで会場を沸かせたのは田中さん黒郷さんコンビ。普段を知っているご利用者だからこそ、その意外性が受けて大爆笑となりました。第二部は踊り・歌謡ショー・手品を披露、ご利用者・職員一体となってよく笑い・踊り・歌いました。心も頭も体もスッキリ。「笑う」ことは人を幸せにします。

備後屋に悪事を持ちかける悪代官

「格さんや、一件・落着～」

小規模多機能型居宅介護事業所

藤原別荘

「やっと自分が思い描いていた福祉の世界に巡り会えたような気がする」そう語るのは、管理者でケアマネージャーの森年さん。優輝福祉会の職員になって５年目の春を迎えました。藤原別荘は、町の中心近くの小高い丘の上に位置し、甲奴の町を眼下に見渡す事ができる気持ちのいい佇(たたず)まいです。別荘は30年以上前に、地域の方に利用して欲しいとの思いで建てられ、その当時は地域のお花見や神楽などの行事で賑わっていました。思い出のいっぱい詰まった建物は、となり町出身の森年さんと共に、田舎ののんびりとした空気にしっとりと馴染み、今も、訪れる人々を家庭的な温かさで包み込んでいます。

TERMINAL 昨年から今年にかけて、３人のご利用者が長寿を全うされ、安らかに息を引き取られました。「最初は不安でしたが、ご家族の方とよく話し合い、職員みんなで看取らせて頂きました。」診療所の先生方と連携を取り合い、家族の方々とも深いお付き合いをさせて頂く中で、４年目に入った小規模多機能の事業は、地域に根付き始めています。

SAKURA ”桜切る馬鹿・・・”とは云うものの１０数本ある別荘の桜の木は、かなりの高齢となりあちこちに目立ち始めた病気の枝は、やはり切らざるを得ません。蔦が絡まり、苔むしてはいますが老いても毎年かわいい華を咲かせるその力強さは自然の美しさ、生命の尊さに気付かせてくれます。今ここに、更に若い桜を加え、老いた美しさと若い美しさの両方を皆さんに愛(め)でて頂きたく思っております。どなたか桜の苗木の購入や植樹にご支援頂けないでしょうか。ご協力のほど宜しくお願い致します。

ユニバーサルケア みとう温泉

HOT SPRING ゆうしゃいん庄原に隣接する施設は、６年前に開設したみとう温泉。天然ラドン温泉とレストラン、２階にはアパートを備え、高齢者の方のデイサービスや障がい者の方の社会活動・就労を支援しています。ワンフロアーには、高齢者の方や障がい者の方と共に職員が入り混じり、時には盲導犬や子どもさんも加わって、とっても自由でユニークなスペースになっています。温泉やレストランはどなたでもご利用頂けますが、あらかじめご予約下さい。

◆入浴 ： 月～土／13：00～16：00／お一人 310円 （要予約）

◆軽食・喫茶 ヴァンヴェール ： 月～土／ディナー承ります／５名様以上 お一人 4000円（要予約）

障がい者就労支援事業

和食・洋食お好みに応じてご利用ください！お待ち申し上げています。

カフェレストラン ハイヅカ湖畔の森
0824-44-3770

地域食堂さんちゃ 三軒茶屋
0824-72-2037

配食サービス弁当屋
0824-73-1005

喫茶・軽食 ヴァンヴェール
0824-75-0310

星の休憩所 ラウンジ笑花（わっは）
0824-62-3705

「ほほえみパーク」をお受けするに当たって

優輝福祉会 開設20周年の総仕上げとして2011年４月２０日 庄原市に、ソフトケア（地域共生型福祉）の拠点『ゆうしゃいん庄原』がＯＰＥＮしました。ホテルや西洋のお城をイメージした４階建ての白を基調としたシンプルなデザインは、法人が進める「ソフトケア」を象徴するシンボルとして、大きな役割を果たす事になりそうです。一見冷たく感じられる白ですが、ソフトクリームの白であり、またあらゆる色を引き立たせあなたの色に染まることもできる柔軟性は「他者中心主義」をイメージさせるにふさわしい色ではないでしょうか。子どもさんからお年寄りまで、障がいの有無にかかわらず、全ての人が“地域で”“自在に””普通に”暮らせることを目指します。

また、この法人広報誌「ほほえみパーク」も第100号を重ねるに当たり、これを記念して、撮影・取材・デザインを一手に私共でお引き受けさせて頂く事になりました。福祉についての知識は皆無に等しかった私達にとって、ご利用者や職員の皆さんから聞かせて頂いたお話は、どれも新鮮な響きがあり、感動したり驚いたりの連続でした。そして皆さんの輝く笑顔を写真に収め、輝く心を引き出させて頂くことで、私達の仕事もまたＹＯＵ－ＳＨＩＮＥ「あなたが輝けばわたしも」なのだと気付かせて頂きました。関係者の皆様、お忙しい中、撮影・取材にご協力頂き、本当にありがとうございました。

何も分からない私達だからこそ、未だよく知られていない福祉の世界を、誌面を通じてもっと分かりやすく、より多くの方々に伝えられるのではと信じています。皆様の目となり耳となり、取材を続けてまいりますので、屈託のないご意見やご感想など、どうかお寄せ下さい。これからも優輝福祉会と共に歩んで行きたいと思っております。

編集責任者／太陽風
撮影／佐々木一人　取材・デザイン／佐々木照美

人らしく・暮らし・応援紙
ほほえみパーク
第100号
2011年（平成23年）5月4日発行

発行元／社会福祉法人 優輝福祉会 TEL0824-88-3000
〒729-3713 広島県庄原市総領町中領家476
編集／太陽風
撮影／佐々木一人　取材・デザイン／佐々木照美
印刷／優輝design出版

次号は・・・・・・・・
「ゆうしゃいん庄原」
を取材します。